

平成 29 年度 第 2 回安全・適正就業講習会開催（平成 29 年 10 月 18 日）

平成 29 年 10 月 18 日（水）16：45 から町中央公民館において、平成 29 年度第 2 回安全・適正就業講習会が会員 129 名の参加を得て、馬天自動車学校教習指導員講習係の金城貴之氏を講師にお招きし開催されました。

本シルバー人材センターにおいて、就業中の車の事故が多発していることから、第 1 回に引き続いて「高齢者の安全運転について」をテーマに開催されました。

金城講師によると、



車を安全に運転するために大事なことは、「心・技・体」の充実が必要であること。

まず心については、皆さんは今日の講習会に参加したので、心構えはできているから大丈夫です。

技と体については、体力は 20 代をピークに衰えていくが、技術は経験を積むことによって上がっていくので安全運転が保たれていること。

ただ、運転技術も概ね 60 歳を境に落ちると言われています。体力と運転技術を駆使して車を安全に運転することが大事。体力も技術も落ちるとされているシルバー世代の安全運転が求められています。

運転するときは、「認知・判断・操作」の繰り返しで行われていること。

認知ミス、見間違いをしないことが大切であり、そのためには持続的注意・分割的注意・選択的注意が欠かせません。

アメリカの保険会社の統計によると、運転中にヒヤリハットした 300 件の 1 割にあたる 30 件が事故に繋がり、そのうちの 29 件が軽傷事故になり、1 件が重大事故になっているとのこと。

交通事故を避けるためには、ヒヤリハットとなった時点でどういう対処をすべきであったかを確認し、次につなげることがとても大切なことであること。



「運が悪かったなあ」という事故は 1 件も存在しないこと。必ず事故につながった原因があることを認識し、それをしっかりと検証することが大事です。

安全に運転するためには、例えば、後出しじゃんけんで勝つために必要な「よく見て、考えて、行動する」のような、「間」を取ることが必要であること。

皆さんの心がけで、交通事故を 1 件でも減らすようにしましょう。ということで締めくくられました。

今度の講習会で学んだことを実践し、就業中も日常生活中も交通安全に気を付け、被害者にも加害者にもならないように気をつけたいものです。

シルバー会員全員で、声かけあって安全・適正就業に努めましょう。



講演会の資料として

1 トラックの死角

① 左側後方は死角が大きい

- ・右側に運転席のあるトラックでは、左側の死角が大きい事を自覚する。
- ・左側は確認できる部分が少なく、左前方から左後方にかけてはバックミラー、アンダーミラーに映る範囲以外はほとんど死角となる。

② 後方の死角

- ・バン型トラックは後方のほとんどが死角である。
- ・後方が見えない状況で安全に後退するためには、いったん下車して後方の安全を確認するか、誘導員に誘導してもらう必要がある。
- ・誘導してもらう時やバックアイカメラを使用する場合でも過信は禁物である。

2 交差点の通行

① 右折時の危険要因と回避する運転

- ・特に直進してくる対向車の後方、右折する対向車の側方を直進する二輪車はスピードを出していて、安全確認は遅れがちになる。
- ・右折時には直進する対向車に注意をとられ、横断する歩行者や自転車に対して注意が不足気味になる。安全確認を十分にすること。

② 左折時の危険要因と回避する運転

- ・左折時、左側後方を直進してくる二輪車に対して十分な安全確認が必要である。バックミラーの死角に入っている二輪車がないことを確認すること。
- ・運転者はトラックの内輪差が大きい事を認識して運転し、左折時の歩行者・自転車の「巻き込み事故」を防止することに努める。

3 ふとした油断が操作ミスに

① 事故について考えてみましょう！

- ・とっさの危険に際し、ブレーキとアクセルを踏み間違えてしまった。

② 事故防止のポイント

・判断力の低下、誤反応の増加を自覚し、適度な緊張を持った運転を心がけましょう。

③ ちょっと知識

・運転を控える勇気や決断も必要

4 バイク・自転車乗車中の交通事故に合わないために

① カーブの手前では、必ず減速しましょう。

② 視力の低下に伴う順応の遅れ、眩惑等を意識し、スピードを控えて慎重に運転しましょう。

③ 過去の経験にとらわれず、自己流に陥らず、初心に返って安全運転に徹しましょう。

④ 疲労の回復力、また、注意力や集中力が低下するので、無理のない運転をしましょう。

特に気を付けることは

5 高齢ドライバーは、出会いがしらの事故に注意 → そのポイントは？

・「徐行」や「一時停止」でしっかり安全確認すること。

6 高齢者は、夕暮れや夜間に注意 → そのポイントは？

・身を守るのは「安全確認」と「反射材」の装着。

資料もしっかり読み込み、交通安全に心がけましょう。